



11月は

薬剤耐性 (AMR) 対策推進月間です

また、WHOは11月18日～24日を世界薬剤耐性 (AMR) 啓発週間と定めています

特定の種類の抗菌薬や抗ウイルス薬等の抗微生物剤が効きにくくなる、又は効かなくなることを、「**薬剤耐性 (AMR)**」と言います。薬剤耐性を得た細菌「**薬剤耐性菌**」が増えると抗菌薬が効かなくなることから、これまでは、感染、発症しても適切に治療すれば軽症で回復できた感染症の治療が難しくなって重症化しやすくなり、さらには死亡に至る可能性が高まります。

～薬剤耐性 (AMR) の拡大を防ぐために大切なこと～



◎感染症にかからないようにし、抗菌薬を必要とする機会をすくなくすることが重要

感染を予防するためには、日ごろからの、正しい手洗いやうがい、マスクの活用などが重要になります。また、生活や食事、休養などに配慮して、健康に気をつけることも大切です。

◎ウイルスによる感染症に対しては、必要のない抗菌薬を処方しないという取組が重要

風邪などウイルスによる感染症に抗菌薬は効きません。抗菌薬は細菌に対して効果があるものであり、不適正な使い方により、その抗菌薬が将来効かなくなることがあります。もしも、感染症にかかってしまい病院に行った際には、医師に自分の症状を詳しく説明し、医師が適切な診断を下せるようにしましょう。

◎一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要

医師から処方された薬を、症状が軽くなったからといって途中で止めてしまったり、勝手に量や回数を変更したことはありませんか？医薬品は、医師や薬剤師の指示から外れた使い方をする、十分な効果が期待できません。特に抗菌薬については、こうした不適切な使い方をする、新たな耐性菌が出現するリスクが高まります。

政府広報オンライン「抗菌薬が効かない「薬剤耐性 (AMR)」が拡大！一人ひとりができることは？」(<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201611/2.html>)をもとに作成

定点 種別	疾患名	状況	45週(11/3～11/9)		46週(11/10～11/16)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	△	285	11.88	637	26.54
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		33	1.38	44	1.83
	急性呼吸器感染症(ARI)		1596	66.50	2052	85.50
小児科	RSウイルス感染症		13	0.87	6	0.40
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	8	0.53	8	0.53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	16	1.07	22	1.47
	感染性胃腸炎	—	37	2.47	51	3.40
	水痘(みずぼうそう)	—	3	0.20	0	0.00
	手足口病	—	3	0.20	0	0.00
	伝染性紅斑(りんご病)	○	32	2.13	31	2.07
	突発性発しん		7	0.47	4	0.27
	ヘルパンギーナ	—	0	0.00	0	0.00
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	0	0.00	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	13	2.60	8	1.60
基幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		14	2.80	17	3.40
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○：警報レベル △：注意報レベル —：警報・注意報レベルなし